



市民の皆様が 主役となるスポーツ振興を

公益財団法人大垣市体育連盟
会長 堤 俊彦

明けましておめでとうございます。

皆様には、令和5年の輝かしい新年をお迎えのことと、謹んでお喜び申し上げます。

さて、令和4年は、年初め早々に新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい非常事態宣言などが発令される状況の中の幕開けでした。しかしながら、非常事態宣言などが明けてからはwithコロナの動きが加速していき、コロナ禍で中止となった行事や大会などが開催され、施設の使用制限も徐々に緩和されてきました。

さらに令和4年は、大垣市民にとって誇らしいニュースがありました。2月に行われた北京2022オリンピック競技大会ノルディックスキー複合団体で、大垣市在住の永井秀昭選手が銅メダルを獲得する快挙を成し遂げられたことです。その功績をたたえ本連盟最高の栄誉である須崎章を授与させていただきました。他にも、大垣西高等学校アーチェリー部の齊藤史弥選手が全国高等学校選抜大会、インターハイ、国民体育大会で優勝を飾り史上初の三冠を達成されたことや、大垣日本大学高等学校男子駅伝部が県大会にて優勝し、初の全国高等学校駅伝競走大会に出場されたことなど、大垣市の若い世代の快挙もありました。今後、多くの大垣市民が活躍されるように、本連盟も様々なサポートやスポーツ環境の整備に努めてまいります。

また、コロナ禍のため、延期を重ねた本連盟創立70周年記念懇談会を6月30日に開催することができました。今まで本連盟を支えていただきました関係者の皆様へ感謝をお伝えすることができました。今後も本連盟が80年、90年、100年と続いていくように鋭意努力をしてまいります。

そして、令和4年から新たな事業として、幼児を対象とした「げんきにあそぼう！垣っ

子ひろば」を開催しました。走る、跳ぶ、投げるといった基本的な動きを取り入れた様々な遊びを幼児に体験してもらうことにより、「体を動かすこと（スポーツ）は楽しい」と感じてもらい、今後、生涯スポーツへとつながることを期待します。

このような明るいニュースや、今後のスポーツの発展に期待できることなどを鑑みますと、令和5年からは、コロナ禍という暗く長かったトンネルから抜け出せる年となるのではないのでしょうか。さらに、近年の個人々の健康志向の高まりなどが追い風となり、よりスポーツの躍進が期待されます。

そして現在、スポーツは変革期にあります。コロナ禍による大会運営の変化や中学校部活動の地域移行化など、今までと異なる状況となっています。本連盟としましても、大垣市のスポーツの一端を担う団体であるため、各関係機関と連携しながら改革に携わっていく所存でございます。改革を行ううえで、様々な問題点は付き物です。一つひとつ問題点を解決していくことで、より良い仕組みづくりができると考えます。本連盟が目指す第5次将来構想のもと、「暮らしにスポーツのある都市（まち）-大垣」の実現に向け、これまで培った組織の経験を生かし、各種事業や施策を進めてまいります。

また、市民の皆様が主役となるスポーツ振興を心掛けるとともに、公益財団法人としての社会的役割を十分認識し、市民の皆様にご信頼され、期待される組織づくりに努めてまいりますので、なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

終わりに、令和5年が皆様にとりまして、希望に満ちた輝かしい年となりますよう心からご祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。